

建通新聞電子版

四国

2026/07/06 10:07

日測協四国 創立50周年の式典開く



日本測量協会四国支部は7月2日、創立50周年の記念式典を高松市で開き、国土交通省四国地方整備局や国土地理院、多くの支部会員が門出を祝った。

あいさつに立った高木方隆支部長＝写真＝は「測量技術の進歩は目を見張るものがある。今後はA Iによる測量を含め、さまざまな業務が自動化されるだろう」と述べる一方で、「測量や設計業務では、はじめの一步は現場に出向いて人と話し、現場がどのような状況であっても、分け入って確認する必要がある。どんなに技術が進展しても、人や自然と向き合う仕事は生身の人間でやらなければならない。人間でしかできない仕事は尊い業務になっていくだろう」と思いを込めた。

日本測量協会の清水英範会長は、「四国支部はこれまで、講習会、講演会などの教育研修、測量機器成果の検定、測量の重要性に関する広報・啓発を積極的に展開し、地域の発展のために大きな貢献をしてきた。支えてきた歴代の役員・会員の皆さまに敬意を表する」と感謝の言葉を述べた。

四国支部は1976年5月22日に、正会員198人で設立。2025年度末時点では正会員450人となった。これまでに測量技術講習会などを494本開催し、累計の参加者は9605人を数えた。

式典では、役員退職表彰として、役員を5年以上務めた和コンサルタントの水上博史代表取締役と、親和技術コンサルタントの武智秀樹相談役に清水会長から感謝状を贈呈。50年継続会員の20社に対し、高木支部長が感謝状を授与した。また公共測量品質管理優秀賞として、都市開発コンサルタントと第一コンサルタンツを表彰した。

式典に先立っては、「測量の日」記念講演会を開催、清水会長が「日本の土地政策—その法的体系と近年の動向—」と題し講演した。